事例
06

（社福）
苫小牧市社会福祉協議会

担当部署 地域福祉課地域福祉第1係

社協事務所のある市民活動センター

町の素顔

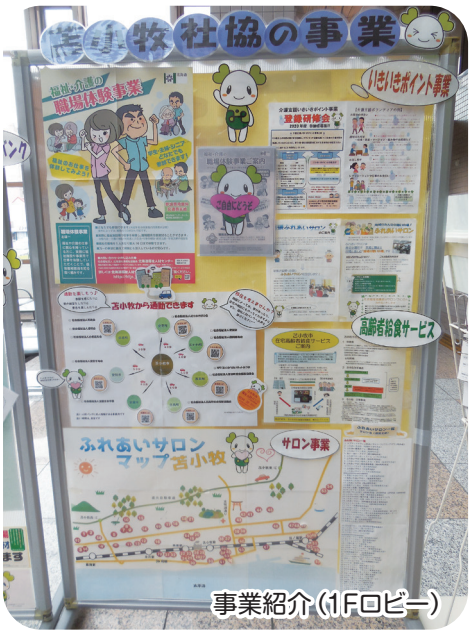
苫小牧市 人口 170,370人（R2.9.30） 高齢化率 29.31%（R2.9.30）

苫小牧港と新千歳空港のダブルポートを擁する交通至便な工業都市でありながら、樽前山とラムサール条約湿地指定のウトナイ湖がある自然豊かな都市。

苫小牧市内でのサロンの開設は、平成21年4カ所からのスタートで、平成23年度に苫小牧市が重要課題として掲げた「みんなでふくし大作戦」（※1）にてふれあいサロン事業を市民へ広げようと提案し、苫小牧市長を交えたふれあいサロン運営者交流会が行われました。34か所（平成29年）と比べ、現在は68か所と倍増しています。ただし、1つの町内会に2つ以上のサロンがある町内会がある一方で、活動場所となる会館のない町内会があることから全84町内会にサロンを開設できないため、サロンのある町内会は約半分程度にとどまっています。

サロンが増えた理由としては、町内会の会館などを利用し、必要なものをそろえてすぐ開設できるようにした社協の出張サロンで、サロンの開設が容易になったことが考えられるものの、サロン開設に対する助成はサロン保険のみとなっており、ここまでサロン数が伸びたのは「市民のみなさんの力が大きい」（千寺丸係長）としています。

各サロンの様子は、どのサロンもおしゃべりを遮らないと入れないほど楽しそうな雰囲気で、利用者は圧倒的に女性が多くなっています。男性限定の燻製づくり初級編（参加費500円）では、定員超の18名が参加され、男性が参加しやすい内容も試行されています。また、独居の高齢者も多いので、もっと気軽に参加できるように工夫していく予定となっています。



事業紹介（1Fロビー）

キーマンとなるアクティブシニアの発掘について伺うと、「サロンの運営をはじめ、地域のために何かしてくれるキーマンはどこにでもいます。どこにでも顔を出すようにすると、何とかしてくれる人がいて、何かしてくれそうな人を自然に見つけられるようにもなります」（同）さらに、ボランティアセンターが催したセミナーの参加者同士のつながりなども大事な要素となっています。

コロナ禍での活動においては、市営住宅の花壇づくりなどは屋外活動なので良いと思われるものの、各老人クラブがやる気満々で毎年行われるコンテストも今年度は中止になるなど、厳しい状況が続いています。現在、サロンの内容は触らないレクリエーションや体操がメインになっていますが、社協職員が100円均一ショップで集めたグッズでゲームを考案したり、毎月1回脳トレの冊子を4,500部程手づくりして配布するなどの努力と工夫を重ねています。

（※1） 苫小牧市では、毎年、市政の重要課題などにまちぐるみで取り組む「大作戦シリーズ」を実施

ふれあいサロンやまて

代表者　平間 敬子、山谷 寿郎
参加世帯　市営住宅170世帯
参加費　無料（月1回開催）
開設　平成30年9月

カードゲームで頭を悩ませている利用者のみなさん

苫小牧市内に68か所あるサロンのひとつ「ふれあいサロンやまて」（以下サロン）について、運営者のひとりであり山手地区の民生委員でもある山谷寿郎さん（小樽市出身）からお話を伺いました。

山谷さんはサロンとは別の社協で募集中の運転ボランティアにおいて、自身の参加に加え、複数名の運転ボランティアもコーディネートするなど、多方面で活躍しています。

サロンは、元々自主的にサロンを開いていたご高齢の方から、道具の持ち出し準備や運営費等が負担になってきたのでサロンを終了すると聞き「誰かがやってくれるのなら引き継いで欲しい」とのことで、山谷さんが引き継いで始めました。

サロンの運営にあたっては、運営費を自己負担とし、どこにも制約を受けず思い通りに運営できることが良いとしつつ、「社協が職員派遣等のバックアップをしてくれたことが大きく、サロンの開設に対しても人数などの条件によるしばりがなかったことも良かったです」とする一方で、山谷さん自身も社協のパンフレットを戸別配布するなどサロンのPRを行い、さらに毎回電話による案内をしたそうです。

また、自治会長が代わってからサロンの開催に好意的になり、飲料などの差し入れを提供してもらえるなどの協力もあり、自治会ではそれまでになかった盆踊り会やクリスマス会を開催しサロン利用者の多くが参加するなど居住者と自治会との連帯感が生まれ、10名足らずでスタートした参加者も20名以上に倍増するなど地域住民の交流の連鎖ができつつあります。

隣近所で付き合いのなかった人が、お互い顔の見える関係になるなど、民生委員の活動にも良い影響が得られるようになり、「参加費無料で利用者の満足度が高く、『楽しかった』と言ってもらえることが何よりうれしいです」と明るく話します。

「昔は自分自身のことで精いっぱいで他人のことなど考えられなかった」とも話す山谷さんですが、赤十字奉仕団に入団してから奉仕の精神が芽生え、何かしたいけどなかなか一歩を踏み出せない人がいる一方で、負担にならない範囲で何かしたいという人も多いと感じられています。

近年、社協は生活支援コーディネーターが配置されてからさらに相談しやすくなった分、業務増大により以前より大変そうに見えることから、「今後はサロンの運営に関して社協への依存度を減らしたいと思う一方で、マンネリ化防止や各種情報提供を得るためには、今のままで良いかとも思っています」と胸中を語っていただきました。

輪投で体をほぐし楽しんでいるみなさん